

シーボルト記念館だより №.91

Siebold Memorial Museum Journal

令和 6 年度の主な活動を御紹介します。

第 36 回特別展「街道を行き交う」を開催しました。

江戸時代の日本では、街道が整備され多くの人々が様々な目的で往来しました。シーボルトが江戸参府で通った長崎街道を中心に、当時の街道や宿場の風景、旅の目的を示す資料を展示し、江戸時代の交通の実情を御紹介しました。

（主な展示品）

『九州国之図』、「旅行日記長崎ち大坂迄往復」（個人蔵 大村市歴史資料館寄託）、『イラストレイテッドロンドンニュース 武雄温泉』（武雄市蔵）、「江戸行一件書留」



（関連行事）

講演会

① 11 月 16 日(土) 於長崎歴史文化博物館ホール

講師 武雄市図書館・歴史資料館 学芸員 古川総一氏

演題 「路をたどって 陸の道、水の道、そして蘭学の来た道 」

② 11 月 23 日(土) 同上

講師 西南学院大学国際文化学科教授 宮崎克則氏

演題 「福岡の殿さまとシーボルト」

デジタルスタンプラリー

スマートフォンのアプリを利用して、シーボルトゆかりの場所 5 か所を巡ってスタンプを獲得し、記念品の抽選に応募していただきました。

実施期間 11 月 1 日～12 月 28 日

『鳴滝紀要』第34号を発刊しました。

研究誌『鳴滝紀要』の第34号（A4判、45ページ）を発行しました。
定価は1冊1,200円。記念館窓口で販売しているほか、郵送による購入も可能です（その場合は送料が別途かかります）。バックナンバーもございますので、くわしくは記念館までお問い合わせ下さい。

＜主な内容と著者＞（敬称略）

- ・「鳴滝塾の模型調査の報告と検出遺構の再整理」
宮下雅史（長崎市文化財課課長補佐）、倉田法子（同学芸員）
- ・研究ノート「シーボルト事件後の門弟の交流について」
徳永宏（シーボルト記念館長）
- ・令和6年利用状況・事業報告・職員名簿

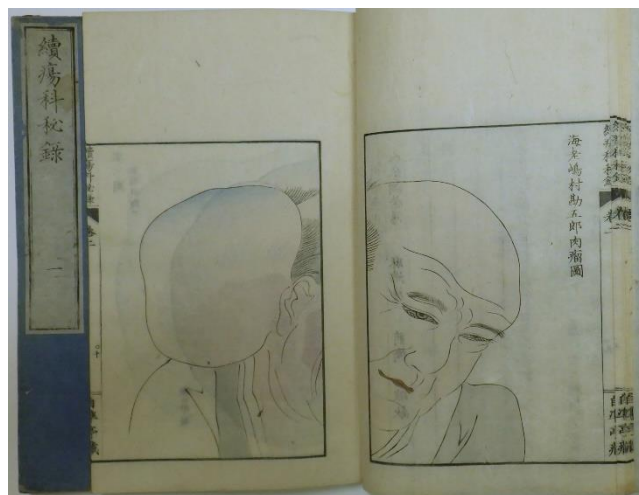
新収蔵資料の御紹介

シーボルト記念館では、シーボルトその関係者に関する資料を収集しています。

本間玄調口授・川又誠等筆記『続瘍科秘録』（安政6年刊）5冊

瘍（よう）とは、皮膚のできものや腫物のことを指し、本書は外科及び皮膚科疾患の治療法や治験（新しい薬や治療法を確かめること）門人の筆談による本間玄調（棗軒）が口述した内容をまとめたものです。

本間玄調は、常陸国茨城郡小川村（現在の茨城県小美玉市）の医師の家に生まれました。17歳で、原南陽（水戸徳川家の侍医を務める）に入門して医学を学び、江戸に出て杉田立卿から西洋医学を学びました。その後、長崎へ遊学、さらに紀州の華岡青洲の下で数カ月間専ら外科を学んでいます。江戸で開業した後、水戸徳川家の藩主徳川斉昭の侍医となり、天保14年（1843）には弘道館医学館の教授を務めます。



令和7年（2025）4月23日発行 シーボルト記念館

〒850-0011 長崎市鳴滝 2-7-40

TEL 095-823-0707 FAX 095-823-0170

E-mail siebold@city.nagasaki.lg.jp